

1 中野地区の概要

(1) 概要

中野地区は、邑南町の西部にある於保知盆地の真ん中に位置している。中野とは三ヶ村（矢上、中野、井原）盆地の中間の意で、昔は中の里ともいわれていた。

砂鉄がとれる地域で、江戸時代はたたら鉱業が盛んで、鉄資源によって栄えたところであり、今もたたら跡を見られるところがある。面積約 23.61 km²。人口 1,519 人。822 世帯。高齢化率 40.1%（平成 31 年 12 月 31 日現在）

自治会が 4 自治会あり、地域には、小・中・養護学校が各 1 校。公立病院、福祉施設、保育所、複合商業施設等がある。



東明寺山から見た中野地区

2 事業の趣旨

(1) 背景

中野地区には、古墳群や城跡など「地域のお宝」といわれる史跡・遺跡が多数ある。しかし、近年はその存在を知らない子どもたちや親世代がおり、十分に「地域のお宝」の伝承ができていないと感じている。

また、中野地区では体験活動を通じて地域を知り、後継者となる若者を育成し、地域力の底上げを図ることを目的とした「中野地区地域学校」を実施しているが、過去

に公民館で昔のあそびや文化を教えてくれていた方も高齢となり、子どもたちの体験活動の内容や関わる人の固定化が進んでいる。

(2) ねらい

ア 地域のお宝の学習・再認識

子どもたちが「地域のお宝」を知り郷土の歴史を学ぶことで、ふるさとへの誇りと愛着を持ち、自分の地区にどんなお宝があるか言えるようになることや、親世代を含めた地域の大人が地域のお宝や歴史を再認識すること。

イ 地域の素材の見直し

地域の“ひと”“もの”“こと”を見直すことで、体験活動の内容を充実させるとともに、大人たちも楽しめる取り組みとして地域の子育てへの積極的な参加を促すこと。

3 具体的な取組内容

(1) 地域のお宝めぐり

ア 夏休みお宝めぐり

子どもたちが地域のお宝の内容を理解しやすくなることと積極的に学んでくれることをねらいとして、平易な説明と虫食い式にした冊子「中野ウォッチングノート」を作成し、現地を巡った。

当日は、子どもたちも話を聞きながら書き込んでおり、家庭で保護者が目を通すことで大人の再認識につながればよいと期待した。



中野ウォッチングノート（左）と鬼の木戸の見学（右）

イ 清掃活動&お宝めぐり

町社協主催の「邑南町ボランティアの日」のごみ拾い清掃活動に合わせて、地区内のお地蔵さんを探し、由来を聞きながら歩いた。

(2) 地域の教科書づくり

ア アンケート調査の実施

地域の方に子どもたちに体験活動で教えられるような特技を持った指導者となってもらえる人材を募った。結果的にはごく少数の回答であった。

イ 地域のお宝つなぎ

地域の素材を見直すワークショップを開催。地域の“ひと”“もの”“こと”を挙げ、それらを活かし子どもも大人も楽しめる体験活動について話し合った。

ウ 郷土の歴史マンガ発表会

中野公民館で継続的に学習会を行っている石見の戦国武将・多胡辰敬と彼の残した教訓状を地元の邑南郷土史研究会が郷土の歴史マンガとして発刊され、学習会を兼ねた発表会を開催した。

エ 体験活動 凧づくり教室

地域の方を講師に凧づくり教室を開催。18名の小学生が参加し、伝統的な凧づくりを体験した。



凧ののり付け作業



発表会の様子

4 評価と成果

(1) 地域のお宝めぐり

子ども目線の冊子を作成したことで、子どもたちの関心・積極性が高まった。

また、子どもたちはお地蔵さんの場所や由来だけでなく、昔の道の場所も知ることができた。地域の大人も知らない場所や話もあり、世代間での交流・学習ができた。

(2) 地域の教科書づくり

体験活動について、地域の方に話し合ってもらうことで参画につながった。

5 今後の課題と見通し

(1) 課題

公民館にお宝マップが掲示してあるが、作成から10年経過し写真も色あせているので、更新するなど興味・関心を高めていきたい。また、子どもたちが多様な価値観に触れられるようにいかに多くの大人を巻き込んでいくかが課題となってくる。



公民館内のお宝マップ

(2) 見通し

ワークショップで出た素材（企画）を活かしながら、次年度以降の取組を検討していきたい。教えることが苦手な人でも子どもたちと一緒に体験しながら関わられるような事業を検討していきたい。

（文責：主事 上田直明）